



## 平成26年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月30日

上場取引所 東

上場会社名 セーラー万年筆株式会社

コード番号 7992 URL <http://www.sailor.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中島 義雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長

(氏名) 比佐 泰

TEL 03-3846-2651

四半期報告書提出予定日 平成26年5月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第1四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第1四半期	1,635	20.5	△6	—	△93	—	△87	—
25年12月期第1四半期	1,357	△16.0	△149	—	△134	—	△148	—

(注) 包括利益 26年12月期第1四半期 △110百万円 (—%) 25年12月期第1四半期 △98百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第1四半期	△0.97	—
25年12月期第1四半期	△2.43	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
26年12月期第1四半期	6,504	2,124	32.3	16.87		
25年12月期	4,765	586	11.7	7.79		

(参考) 自己資本 26年12月期第1四半期 2,099百万円 25年12月期 555百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年12月期	—	—	—	—	—
26年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,038	12.1	122	—	97	—	81	—	0.65
通期	6,240	12.9	300	—	250	—	217	—	1.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期1Q	124,569,611 株	25年12月期	71,397,587 株
② 期末自己株式数	26年12月期1Q	130,408 株	25年12月期	122,843 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期1Q	90,041,286 株	25年12月期1Q	61,134,845 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成26年1月1日～平成26年3月31日）の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、現政権や日銀による各種施策・政策の効果によって個人消費を中心に上向きの気配が感じられる一方、円安による輸入品価格の上昇や中国をはじめとする新興国経済の減速懸念などにより、先行きの不透明さは払拭できず、企業は設備投資に関して慎重な姿勢で臨んでいるような状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループでは積極的な販売施策を推し進め、収益の確保を目指してまいりました。その結果、平成26年4月からの消費税増税による駆け込み需要の影響もあって、当第1四半期連結累計期間の売上高は16億3千5百万円（前年同期比20.5%増）となりました。利益面におきましては、ロボット機器事業の海外事業がふるわず営業損失6百万円（前年同期営業損失1億4千9百万円）となりました。経常損益につきましては、株式交付費の計上があったことなどから経常損失9千3百万円（前年同期経常損失1億3千4百万円）、四半期純損失8千7百万円（前年同期四半期純損失1億4千8百万円）となっております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (文具事業)

国内消費につきましては、消費者マインドの改善に加え、消費税増税の駆け込み需要の影響もあって、万年筆・ボールペンの中高級品を中心に、堅調な売上を維持しました。その結果、売上高は11億7千4百万円（前年同期比13.7%増）、営業利益1千3百万円（前年同期営業損失5千4百万円）となりました。

#### (ロボット機器事業)

ロボット機器事業につきましては、国内売上は企業の消費税増税前の駆け込み需要もあって、特注装置、改造工事などが堅調に推移しましたが、中国及びアメリカの海外子会社の業績がふるわず、売上高4億6千万円（前年同期比41.9%増）、営業損失2千万円（前年同期営業損失9千4百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の状況)

資産合計は、前連結会計年度末に比べて17億3千9百万円増加し、65億4百万円となりました。このうち流動資産は、現金及び預金の増加14億5百万円、受取手形及び売掛金の増加1億2千1百万円等により、17億6千3百万円増加して48億8千1百万円となりました。

また、固定資産は16億2千3百万円となりました。

#### (負債の状況)

流動負債は、支払手形及び買掛金の増加2億8千9百万円等により、前連結会計年度末より2億2千3百万円増加し、33億1千7百万円となりました。

固定負債は、前連結会計年度末より2千1百万円減少し、10億6千3百万円となりました。

#### (純資産の状況)

純資産は、前連結会計年度末から15億3千7百万円増加して、21億2千4百万円となりました。これは、ライツ・オフアリングによる増資により、資本金、資本剰余金がそれぞれ8億2千4百万円増加したことによるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、現時点で平成26年2月14日に公表した見通しから変更はありません。通期における実際の業績につきましては、当社を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートの変動などの様々な要因により本資料発表日現在の見通しとは異なる可能性を多く含みます。

## 中長期的な会社の経営戦略

### 1. 中期経営計画（平成26年から平成28年まで）の背景

当社は、数期連続して重要な当期純損失を計上しておりますが、この状況を解消するため、平成23年にコストの削減と売上の拡大策を骨子とした中期経営計画（平成23年から平成25年まで）を策定し、経営改善に努めてまいりました。この結果、平成24年度には、コスト削減策が奏功して6期ぶりの営業利益を計上しましたが、平成25年度には、法人需要減少の影響等、国内外の様々な要因から、再び営業損失を計上しております。

当社は、状況を抜本的に改善するためには、既存事業の強化を目的とした大型の投資が必要と判断し、平成25年末にライツ・オフアリングによる従来に比べ規模の大きな増資を発表し、平成26年3月に株主の皆様から約16億円の事業資金を調達することができました。

## 2. 中期経営計画（平成26年から平成28年まで）の概要

このような状況の中、次の基本方針に従い、高品質な製品を市場供給していくことで、増資資金を有効活用しながら、販売拡大による収益力強化を実現してまいります。研究開発により自社製品の比率を上げていくことで、一層の利益拡大を目指します。

（基本方針）

『SAILOR』ブランドの活用とブランド価値の向上  
開発型メーカーへの回帰と競争力ある製品の開発

（経営数値目標）

- ①売上高経常利益率7%以上
- ②有利子負債16億円以下

## 3. 事業別基本戦略

（文具事業）

### ①ターゲットを絞り、顧客ニーズをくみ取った特徴ある製品の開発

- ・当社の強みである万年筆・ボールペン等の中高級品に注力し、特徴ある製品を開発。
- ・『セーラー』『プロフィット』等のブランド価値を高める高品質・高品位の製品を開発。
- ・創立120周年を迎えるDAKS製品をはじめとしたライセンス製品、OEM製品に注力していく。
- ・セーラーの開発品である筆ペンの新製品開発。
- ・成熟化が進む国内文具市場に向けて、女性、学生等のユーザーを意識した特徴ある製品を開発。
- ・法人ギフト市場へ向けて、ボールペンなどを中心に、新たな価値を付加した製品を開発。

### ②既存販売店の深掘りと新規販売ルート・チャネルの開拓

百貨店や大型文具専門店など、従来の販売先へのサービス・サポートの拡充、店舗拡大中の大型複合型書籍店への販売強化、新たな販売店の獲得など、拡販への取り組みを一層強化していきます。

また、新規販売チャネルの開拓や拡大が進むインターネット販売への取り組みを強化していきます。

### ③海外市場の再構築

東南アジア向けには、万年筆レギュラー品を中心とした販売、ヨーロッパ向けには、蒔絵を中心としたオリジナル商品の販売など、国別・地域別に絞り込んだ製品を供給し、セーラーブランドの浸透を図っていきます。

### ④新規事業

- ・音声ペン事業については、教育・観光・介護等の分野で販売拡大を目指します。
- ・昨年末より手がけ始めた水処理機器については、戸建て住宅・マンション業者・ビル管理会社などを中心に売り込みを強化し拡販を図ります。

（ロボット機器事業）

### ①射出成形機用取出ロボットの販売拡大

主力製品である射出成形機用取出ロボットの販売に注力し、売上の拡大を目指します。当社最上位機種RZ-Σシリーズをスペックアップして平成26年秋に発売します。セーラーロボットの特長である高速性・高剛性を更に追求し、生産現場における生産性向上、安定稼働をサポートしていきます。

また、汎用機種であるRZ-Aシリーズの機種を増やし、コストパフォーマンスを維持しつつ、顧客のニーズに合わせた提案ができる体制を築きます。

### ②ロボット機器の販売強化策

マーケティングの実施、補助金の活用提案など、ロボット販売に関する様々な取り組みを実施し、国内販売を強化していきます。

国内サービス体制の強化、部品のインターネット販売開始など、サポート体制を充実していきます。

営業社員の増員、新規採用、社員教育の強化、販売ツールの充実など、販売力、提案力の底上げを行います。

### ③海外市場への取り組み強化

子会社のあるアメリカ、タイ、中国を中心に、海外サービス拠点の増設、子会社社員の現地採用など、販売拡大への取り組みを一層強化してまいります。

（コスト削減）

平成23年から取り組んだ販管費削減、売上原価低減のための構造改革を継続して実施し、高品質を維持しながら、更なるコスト削減を図ります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において数期連続して重要な当期純損失を計上し、当第1四半期連結累計期間においても四半期純損失を計上しているため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況に対応するため、当社グループは以下の施策を実行し、基幹事業の経営基盤の強化を行い、収益力の強化を図ることにより、当該状況の改善を実現できると考えております。

### 中長期的な会社の経営戦略

#### 1. 中期経営計画（平成26年から平成28年まで）の背景

当社は、数期連続して重要な当期純損失を計上しておりますが、この状況を解消するため、平成23年にコストの削減と売上上の拡大策を骨子とした中期経営計画（平成23年から平成25年まで）を策定し、経営改善に努めてまいりました。この結果、平成24年度には、コスト削減策が奏功して6期ぶりの営業利益を計上しましたが、平成25年度には、法人需要減少の影響等、国内外の様々な要因から、再び営業損失を計上しております。

当社は、状況を抜本的に改善するためには、既存事業の強化を目的とした大型の投資が必要と判断し、平成25年末にライツ・オフリングによる従来に比べ規模の大きな増資を発表し、平成26年3月に株主の皆様から約16億円の事業資金を調達することができました。

#### 2. 中期経営計画（平成26年から平成28年まで）の概要

このような状況の中、次の基本方針に従い、高品質な製品を市場供給していくことで、増資資金を有効活用しながら、販売拡大による収益力強化を実現してまいります。研究開発により自社製品の比率を上げていくことで、一層の利益拡大を目指します。

##### （基本方針）

『SAILOR』ブランドの活用とブランド価値の向上  
開発型メーカーへの回帰と競争力ある製品の開発

##### （経営数値目標）

- ①売上高経常利益率7%以上
- ②有利子負債16億円以下

#### 3. 事業別基本戦略

##### （文具事業）

##### ①ターゲットを絞り、顧客ニーズをくみ取った特徴ある製品の開発

- ・当社の強みである万年筆・ボールペン等の中高級品に注力し、特徴ある製品を開発。
- ・『セーラー』『プロフィット』等のブランド価値を高める高品質・高品位の製品を開発。
- ・創立120周年を迎えるDAKS製品をはじめとしたライセンス製品、OEM製品に注力していく。
- ・セーラーの開発品である筆ペンの新製品開発。
- ・成熟化が進む国内文具市場に向けて、女性、学生等のユーザーを意識した特徴ある製品を開発。
- ・法人ギフト市場へ向け、ボールペンなどを中心に、新たな価値を付加した製品を開発。

##### ②既存販売店の深掘りと新規販売ルート・チャネルの開拓

百貨店や大型文具専門店など、従来の販売先へのサービス・サポートの拡充、店舗拡大中の大型複合型書籍店への販売強化、新たな販売店の獲得など、拡販への取り組みを一層強化していきます。

また、新規販売チャネルの開拓や拡大が進むインターネット販売への取り組みを強化していきます。

### ③海外市場の再構築

東南アジア向けには、万年筆レギュラー品を中心とした販売、ヨーロッパ向けには、蒔絵を中心としたオリジナル商品の販売など、国別・地域別に絞り込んだ製品を供給し、セーラーブランドの浸透を図っていきます。

### ④新規事業

- ・音声ペン事業については、教育・観光・介護等の分野で販売拡大を目指します。
- ・昨年末より手がけ始めた水処理機器については、戸建て住宅・マンション業者・ビル管理会社などを中心に売り込みを強化し拡販を図ります。

### (ロボット機器事業)

#### ①射出成形機用取出ロボットの販売拡大

主力製品である射出成形機用取出ロボットの販売に注力し、売上の拡大を目指します。当社最上位機種RZ-Σシリーズをスペックアップして平成26年秋に発売します。セーラーロボットの特長である高速性・高剛性を更に追求し、生産現場における生産性向上、安定稼働をサポートしていきます。

また、汎用機種であるRZ-Aシリーズの機種を増やし、コストパフォーマンスを維持しつつ、顧客のニーズに合わせた提案ができる体制を築きます。

#### ②ロボット機器の販売強化策

マーケティングの実施、補助金の活用提案など、ロボット販売に関する様々な取り組みを実施し、国内販売を強化していきます。

国内サービス体制の強化、部品のインターネット販売開始など、サポート体制を充実していきます。

営業社員の増員、新規採用、社員教育の強化、販売ツールの充実など、販売力、提案力の底上げを行います。

#### ③海外市場への取り組み強化

子会社のあるアメリカ、タイ、中国を中心に、海外サービス拠点の増設、子会社社員の現地採用など、販売拡大への取り組みを一層強化してまいります。

### (コスト削減)

平成23年から取り組んだ販管費削減、売上原価低減のための構造改革を継続して実施し、高品質を維持しながら、更なるコスト削減を図ります。

しかしながら、これらの対応策の実現可能性と成否は、市況、需要動向、他社製品との競合等の影響下による成果に負っており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

#### 4. 四半期連結財務諸表

##### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	719,451	2,124,894
受取手形及び売掛金	1,227,751	1,348,765
商品及び製品	593,367	765,964
仕掛品	124,197	127,025
原材料及び貯蔵品	404,395	426,304
その他	70,805	112,468
貸倒引当金	△22,428	△24,011
流動資産合計	3,117,540	4,881,412
固定資産		
有形固定資産		
土地	953,233	953,233
その他(純額)	131,024	125,733
有形固定資産合計	1,084,257	1,078,966
無形固定資産		
	10,842	9,894
投資その他の資産		
投資有価証券	432,967	413,166
その他	224,617	226,134
貸倒引当金	△104,760	△104,756
投資その他の資産合計	552,824	534,544
固定資産合計	1,647,924	1,623,405
資産合計	4,765,464	6,504,818
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	735,787	1,025,204
短期借入金	1,981,734	1,954,485
1年内返済予定の長期借入金	45,006	41,775
リース債務	1,763	981
未払法人税等	26,370	9,524
賞与引当金	5,591	17,887
アフターコスト引当金	20,360	10,267
その他	277,050	257,059
流動負債合計	3,093,663	3,317,184
固定負債		
リース債務	1,571	1,389
繰延税金負債	54,573	45,468
退職給付引当金	697,856	685,359
再評価に係る繰延税金負債	307,750	307,750
資産除去債務	23,342	23,342
固定負債合計	1,085,093	1,063,310
負債合計	4,178,757	4,380,495



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,523,192	3,347,375
資本剰余金	891,887	1,716,070
利益剰余金	△3,558,460	△3,646,072
自己株式	△20,101	△20,359
株主資本合計	△163,482	1,397,013
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	158,556	142,425
土地再評価差額金	555,747	555,747
為替換算調整勘定	4,387	4,118
その他の包括利益累計額合計	718,691	702,291
新株予約権	199	196
少数株主持分	31,299	24,821
純資産合計	586,707	2,124,323
負債純資産合計	4,765,464	6,504,818

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,357,412	1,635,234
売上原価	1,084,570	1,211,824
売上総利益	272,841	423,409
販売費及び一般管理費	422,082	429,922
営業損失(△)	△149,240	△6,512
営業外収益		
受取利息	108	184
為替差益	3,495	126
持分法による投資利益	30,306	22,416
その他	585	765
営業外収益合計	34,496	23,492
営業外費用		
支払利息	15,676	15,268
株式交付費	—	92,169
支払手数料	2,500	2,400
その他	1,171	682
営業外費用合計	19,347	110,521
経常損失(△)	△134,092	△93,540
特別利益		
関係会社株式売却益	—	2,288
特別利益合計	—	2,288
特別損失		
特別損失合計	—	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△134,092	△91,251
法人税、住民税及び事業税	4,735	4,858
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	4,735	4,858
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△138,827	△96,110
少数株主利益又は少数株主損失(△)	9,732	△8,498
四半期純損失(△)	△148,560	△87,612

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△138,827	△96,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,684	△16,131
為替換算調整勘定	18,475	1,368
その他の包括利益合計	40,159	△14,762
四半期包括利益	△98,668	△110,873
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△111,652	△104,395
少数株主に係る四半期包括利益	12,984	△6,477

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

#### (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において数期連続して重要な当期純損失を計上し、当第1四半期連結累計期間においても四半期純損失を計上しているため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況に対応するため、当社グループは以下の施策を実行し、基幹事業の経営基盤の強化を行い、収益力の強化を図ることにより、当該状況の改善を実現できると考えております。

#### 中長期的な会社の経営戦略

##### 1. 中期経営計画（平成26年から平成28年まで）の背景

当社は、数期連続して重要な当期純損失を計上しておりますが、この状況を解消するため、平成23年にコストの削減と売上の拡大策を骨子とした中期経営計画（平成23年から平成25年まで）を策定し、経営改善に努めてまいりました。この結果、平成24年度には、コスト削減策が奏功して6期ぶりの営業利益を計上しましたが、平成25年度には、法人需要減少の影響等、国内外の様々な要因から、再び営業損失を計上しております。

当社は、状況を抜本的に改善するためには、既存事業の強化を目的とした大型の投資が必要と判断し、平成25年末にライツ・オファリングによる従来に比べ規模の大きな増資を発表し、平成26年3月に株主の皆様から約16億円の事業資金を調達することができました。

##### 2. 中期経営計画（平成26年から平成28年まで）の概要

このような状況の中、次の基本方針に従い、高品質な製品を市場供給していくことで、増資資金を有効活用しながら、販売拡大による収益力強化を実現してまいります。研究開発により自社製品の比率を上げていくことで、一層の利益拡大を目指します。

#### (基本方針)

『SAILOR』ブランドの活用とブランド価値の向上  
開発型メーカーへの回帰と競争力ある製品の開発

#### (経営数値目標)

- ①売上高経常利益率7%以上
- ②有利子負債16億円以下

##### 3. 事業別基本戦略

#### (文具事業)

##### ①ターゲットを絞り、顧客ニーズをくみ取った特徴ある製品の開発

- ・当社の強みである万年筆・ボールペン等の中高級品に注力し、特徴ある製品を開発。
- ・『セーラー』『プロフィット』等のブランド価値を高める高品質・高品位の製品を開発。
- ・創立120周年を迎えるDAKS製品をはじめとしたライセンス製品、OEM製品に注力していく。
- ・セーラーの開発品である筆ペンの新製品開発。
- ・成熟化が進む国内文具市場に向けて、女性、学生等のユーザーを意識した特徴ある製品を開発。
- ・法人ギフト市場へ向けて、ボールペンなどを中心に、新たな価値を付加した製品を開発。

##### ②既存販売店の深掘りと新規販売ルート・チャネルの開拓

百貨店や大型文具専門店など、従来の販売先へのサービス・サポートの拡充、店舗拡大中の大型複合型書籍店への販売強化、新たな販売店の獲得など、拡販への取り組みを一層強化していきます。

また、新規販売チャネルの開拓や拡大が進むインターネット販売への取り組みを強化していきます。

##### ③海外市場の再構築

東南アジア向けには、万年筆レギュラー品を中心とした販売、ヨーロッパ向けには、蒔絵を中心としたオリジナル商品の販売など、国別・地域別に絞り込んだ製品を供給し、セーラーブランドの浸透を図っていきます。

##### ④新規事業

- ・音声ペン事業については、教育・観光・介護等の分野で販売拡大を目指します。
- ・昨年末より手がけ始めた水処理機器については、戸建て住宅・マンション業者・ビル管理会社などを中心に売り込みを強化し拡販を図ります。

(ロボット機器事業)

①射出成形機用取出ロボットの販売拡大

主力製品である射出成形機用取出ロボットの販売に注力し、売上の拡大を目指します。当社最上位機種 RZ-Σシリーズをスペックアップして平成26年秋に発売します。セーラーロボットの特長である高速性・高剛性を更に追求し、生産現場における生産性向上、安定稼働をサポートしていきます。

また、汎用機種であるRZ-Aシリーズの機種を増やし、コストパフォーマンスを維持しつつ、顧客のニーズに合わせた提案ができる体制を築きます。

②ロボット機器の販売強化策

マーケティングの実施、補助金の活用提案など、ロボット販売に関する様々な取り組みを実施し、国内販売を強化していきます。

国内サービス体制の強化、部品のインターネット販売開始など、サポート体制を充実していきます。

営業社員の増員、新規採用、社員教育の強化、販売ツールの充実など、販売力、提案力の底上げを行います。

③海外市場への取り組み強化

子会社のあるアメリカ、タイ、中国を中心に、海外サービス拠点の増設、子会社社員の現地採用など、販売拡大への取り組みを一層強化してまいります。

(コスト削減)

平成23年から取り組んだ販管費削減、売上原価低減のための構造改革を継続して実施し、高品質を維持しながら、更なるコスト削減を図ります。

しかしながら、これらの対応策の実現可能性と成否は、市況、需要動向、他社製品との競合等の影響下による成果に負っており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映していません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年12月27日にライツ・オファリングによる新株予約権の無償割当てを発表し、平成26年2月20日～3月14日に増資の払込を受けました。また、平成26年1月7日に、Oakキャピタル株式会社より、第三者割当増資の払込を受けました。この結果、当第1四半期連結会計期間において資本金が8億2千4百万円、資本準備金が8億2千4百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が33億4千7百万円、資本準備金が17億1千6百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	文具事業	ロボット機器事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	1,032,848	324,563	1,357,412	—	1,357,412
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,032,848	324,563	1,357,412	—	1,357,412
セグメント損失(△)	△54,285	△94,955	△149,240	—	△149,240

(注) セグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	文具事業	ロボット機器事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	1,174,773	460,460	1,635,234	—	1,635,234
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,174,773	460,460	1,635,234	—	1,635,234
セグメント利益又は損失(△)	13,740	△20,252	△6,512	—	△6,512

(注) セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。